



2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年5月14日

上場会社名 藤田観光株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9722 URL <https://www.fujita-kanko.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役兼社長執行役員 (氏名) 山下 信典
 問合せ先責任者 (役職名) 企画本部 経理財務部長 (氏名) 石原 靖子 (TEL) 03-5981-7723
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第1四半期の連結業績(2026年1月1日～2026年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	19,424	3.5	2,586	△12.5	2,116	△15.4	5,346	228.7
2025年12月期第1四半期	18,765	10.5	2,954	43.7	2,500	14.9	1,626	△2.6

(注) 包括利益 2026年12月期第1四半期 3,588百万円(69.1%) 2025年12月期第1四半期 2,121百万円(10.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	89.23	—
2025年12月期第1四半期	26.81	—

(注) 当社は、2026年1月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	97,829	39,567	40.4
2025年12月期	98,834	36,818	37.3

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 39,567百万円 2025年12月期 36,818百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	70.00	70.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期(予想)	—	0.00	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、2026年1月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。2025年12月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。2026年12月期(予想)については、当該株式分割後の数値を記載しております。

3. 2026年12月期の連結業績予想(2026年1月1日～2026年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	39,700	△0.6	5,100	△25.8	4,900	△27.9	7,000	55.0	116.83
通期	83,000	1.2	12,000	△13.0	11,600	△15.4	11,500	23.8	191.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、2026年1月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。連結業績予想における1株当たり当期純利益については、当該株式分割後の数値を記載しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年12月期 1 Q	61,037,120株	2025年12月期	61,037,120株
2026年12月期 1 Q	1,118,610株	2025年12月期	1,118,520株
2026年12月期 1 Q	59,918,569株	2025年12月期 1 Q	59,921,480株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(注) 当社は、2026年1月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、多分に不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や個人消費の持ち直しなどにより、緩やかな回復基調で推移しました。2026年3月までの訪日外国人数は前年を上回り、ホテル・観光業界においてはインバウンド需要が引き続き伸長しました。

2026年度は、重点施策として利便性・快適性の向上に取り組み、既存事業所の客室、ロビーラウンジ、宴会場の大規模リニューアルや箱根ホテル小涌園の増築工事を進めております。

当第1四半期においては、宿泊部門では「ホテルグレイスリー札幌」等の改装を実施しました。また、海外セールスとプロモーション強化により欧米豪からの訪日客取り込みに注力しました。日中関係や中東情勢が不透明であるものの、インバウンド宿泊者数は前年同期比で増加し、ADR（客室平均単価）の上昇に寄与しました。婚礼部門では宴会場の改装等による商品力強化が奏功し、施行件数が増加しました。コスト面では、賃上げを含む処遇改善や、客室改装等の設備投資を実施したことに伴い、労務費や減価償却費が増加しました。

これらの結果、当社グループ全体の売上高は前年同期比659百万円増収の19,424百万円、営業利益は前年同期比367百万円減益の2,586百万円、経常利益は前年同期比383百万円減益の2,116百万円となりました。投資有価証券の売却により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比3,720百万円増益の5,346百万円となりました。

業績の概要は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	2026年第1四半期 連結累計期間	前年同期比
売上高	19,424	659
営業利益	2,586	△367
経常利益	2,116	△383
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,346	3,720

セグメント別の概況については以下のとおりです。

セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高		営業利益または 営業損失(△)	
	実績	前年同期比	実績	前年同期比
WHG事業	11,880	209	2,477	△304
ラグジュアリー&バンケット事業	4,631	361	112	14
リゾート事業	2,548	17	△2	△84
その他(調整額含む)	364	71	△1	6
合計	19,424	659	2,586	△367

(注) 調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

WHG事業では、当期の重点施策として既存事業所の改装による商品力強化を進めております。第1四半期におきましては「ホテルグレイスリー札幌」や「東京ベイ有明ワシントンホテル」等で客室仕様変更やロビーラウンジの改装を実施し、延べ約4万室の売り止め影響がありました。一方で、海外OTA（オンライントラベルエージェント）でのチェーンプロモーションの強化により、欧米豪を中心にインバウンド宿泊者数が前年同期比で増加し、ADRの上昇に寄与しました。同事業全体では前年同期比で売上高は209百万円増収の11,880百万円、営業利益は304百万円減益の2,477百万円となりました。

ラグジュアリー&バンケット事業では、「ホテル椿山荘東京」において、婚礼、料飲、宿泊部門で前年同期比増収となりました。婚礼部門は、昨年実施したキッチン併設宴会場のリニューアル等の商品力強化により、施行件数が増加しました。料飲部門は、慶事・会食需要の高まりにより和食店舗の利用が増え、加えてアフタヌーンティー企画が増収に寄与しました。宿泊部門は、海外OTAでのプロモーション実施により、インバウンド宿泊数が増加しました。同事業全体では前年同期比で売上高は361百万円増収の4,631百万円、営業利益は14百万円増益の112百万円となりました。

リゾート事業では、「箱根小涌園 天悠」においてインバウンド需要が減少したものの、国内需要を積極的に取り込んだことにより高稼働を維持しました。「箱根ホテル小涌園」においても、卒業シーズンの国内需要の取り込みを強化し稼働を維持しました。「箱根小涌園ユネッサン」では、新たなイベントの企画・実施を通じて、入場人員、単価ともに増加しました。同事業全体では前年同期比で売上高は17百万円増収の2,548百万円、営業損失は84百万円悪化の2百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末比1,004百万円減少の97,829百万円となりました。主に現金及び預金の増加により流動資産が4,455百万円増加した一方、投資有価証券の売却等により固定資産が5,460百万円減少しました。

負債は、借入金の返済等により、前連結会計年度末比3,754百万円減少の58,261百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末比2,749百万円増加の39,567百万円となりました。投資有価証券の売却等によりその他有価証券評価差額金が1,749百万円減少した一方、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により利益剰余金が4,507百万円増加しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2026年2月12日に公表した見通しに変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,255	16,901
受取手形及び売掛金	5,888	6,357
商品及び製品	52	49
仕掛品	28	5
原材料及び貯蔵品	506	365
その他	1,949	1,456
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	20,676	25,131
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	34,899	34,469
工具、器具及び備品（純額）	5,184	5,709
土地	5,990	5,990
建設仮勘定	1,795	1,600
コース勘定	2,521	2,525
その他（純額）	825	812
有形固定資産合計	51,215	51,107
無形固定資産		
その他	653	689
無形固定資産合計	653	689
投資その他の資産		
投資有価証券	16,716	11,329
差入保証金	9,362	9,361
その他	213	213
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	26,288	20,900
固定資産合計	78,157	72,697
資産合計	98,834	97,829

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,239	989
短期借入金	7,792	7,792
1年内返済予定の長期借入金	7,388	7,219
未払法人税等	3,037	2,783
賞与引当金	408	1,040
その他	9,501	8,586
流動負債合計	29,366	28,411
固定負債		
長期借入金	12,475	10,712
役員退職慰労引当金	104	16
資産除去債務	964	965
退職給付に係る負債	5,845	5,756
会員預り金	9,976	10,025
その他	3,282	2,373
固定負債合計	32,648	29,850
負債合計	62,015	58,261
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	12,013	12,013
利益剰余金	18,688	23,196
自己株式	△917	△917
株主資本合計	29,885	34,392
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,693	4,944
繰延ヘッジ損益	19	22
為替換算調整勘定	△414	△416
退職給付に係る調整累計額	634	624
その他の包括利益累計額合計	6,933	5,175
純資産合計	36,818	39,567
負債純資産合計	98,834	97,829

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	18,765	19,424
売上原価	14,932	15,824
売上総利益	3,832	3,599
販売費及び一般管理費	878	1,013
営業利益	2,954	2,586
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	5	12
受取地代家賃	25	31
その他	32	13
営業外収益合計	64	57
営業外費用		
支払利息	119	99
為替差損	365	22
支払手数料	—	290
その他	33	114
営業外費用合計	517	526
経常利益	2,500	2,116
特別利益		
投資有価証券売却益	—	5,999
特別利益合計	—	5,999
税金等調整前四半期純利益	2,500	8,116
法人税等	874	2,769
四半期純利益	1,626	5,346
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,626	5,346

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益	1,626	5,346
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	442	△1,749
繰延ヘッジ損益	7	2
為替換算調整勘定	47	△1
退職給付に係る調整額	△2	△9
その他の包括利益合計	495	△1,758
四半期包括利益	2,121	3,588
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,121	3,588

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

但し、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税金等調整前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	WHG 事業	ラグジュア リー&バン ケット事業	リゾート 事業	計				
売上高								
宿泊	10,749	743	2,076	13,569	—	13,569	—	13,569
婚礼	—	1,399	—	1,399	—	1,399	—	1,399
宴会	—	898	—	898	—	898	—	898
料飲	—	793	—	793	—	793	—	793
日帰り・レジャー	—	—	330	330	—	330	—	330
その他	913	419	121	1,453	318	1,772	—	1,772
顧客との契約から生じる収益	11,662	4,254	2,528	18,446	318	18,765	—	18,765
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,662	4,254	2,528	18,446	318	18,765	—	18,765
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8	15	1	25	598	623	△623	—
計	11,670	4,270	2,530	18,471	917	19,388	△623	18,765
セグメント利益又は損失(△)	2,782	98	81	2,962	△13	2,948	5	2,954

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない、清掃事業、不動産周辺事業、会員制事業等があります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	WHG 事業	ラグジュア リー&バン ケット事業	リゾート 事業	計				
売上高								
宿泊	11,082	754	2,035	13,873	—	13,873	—	13,873
婚礼	—	1,641	—	1,641	—	1,641	—	1,641
宴会	—	891	—	891	—	891	—	891
料飲	—	875	—	875	—	875	—	875
日帰り・レジャー	—	—	389	389	—	389	—	389
その他	791	457	122	1,370	383	1,754	—	1,754
顧客との契約から生じる収益	11,873	4,619	2,547	19,040	383	19,424	—	19,424
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,873	4,619	2,547	19,040	383	19,424	—	19,424
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6	11	0	19	578	597	△597	—
計	11,880	4,631	2,548	19,059	962	20,021	△597	19,424
セグメント利益又は損失(△)	2,477	112	△2	2,587	△3	2,583	2	2,586

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない、清掃事業、不動産周辺事業、会員制事業等があります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産および長期前払費用に係る償却費を含む)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	1,019百万円	1,139百万円